

## 隠岐の島からポーランドへ思いを繋ぐ！

事業 分類	姉妹	教育	文化	スポーツ	保健・福祉・医療	経済
	都市	行政	ホストタウン	外国人技能実習	オンライン	その他
自治体	日本：島根県隠岐郡隠岐の島町			海外：ポーランドクロトシン市		

### 【事例紹介】

#### 交流事業の特色

隠岐の島町は、相撲を中心としてスポーツ、経済、歴史、文化、教育など様々な分野での交流を目指している。2015年からは、同様に相撲が盛んであるポーランドのクロトシン市と姉妹都市となり、交流を続けている。

#### 主な交流事業

- ・相撲を通じた交流
- ・文化を通じた交流
- ・教育を通じた交流
- ・2021年クロトシン市友好都市交流5周年記念事業

隠岐の島町：<https://www.town.okinoshima.shimane.jp/www/index.html>

隠岐島バーチャル国際交流会館：<https://okinocir.wixsite.com/kokusaikoryu>

ポーランドクロトシン市：<https://krotoszyn.pl/>

#### 事業の内容

##### ① 相撲を通じた交流

隠岐の相撲の歴史は深く、一般的な相撲大会とは違い、島内で祝い事があったときにのみ開催され、島を挙げて夜通し相撲大会が行われる。もともとは神への奉納相撲「宮相撲」として行われていたが、現在では「隠岐古典相撲」と呼ばれている。クロトシン市民にも相撲は根強い人気があるため、相撲を通じた国際交流が始まった。クロトシン市の訪問団が来島した際は、地元の子どもの相撲稽古の見学や五箇地区相撲大会へポーランド力士が毎年参加する等、交流を深めた。また、隠岐の島町からポーランドへ隠岐力士を派遣し、ポーランド相撲選手権大会へ参加するほか、「本物の相撲」を伝授すべく相撲の指導を実施する等、伝統的なスポーツ文化を通じての交流を図っている。現在のコロナ禍においては、相互の訪問が難しい状況にあるが、2022年には古典相撲も開催されるため、来島が可能となれば、ポーランド力士の受け入れを行う予定である。



隠岐の島の相撲大会の開催

## ② 文化を通じた交流

2016年、クロトシン市と友好都市提携調印後、同市で開催された文化祭に招待を受けた。町民の「ちぎり絵」愛好会が参加し、現地の住民と日本のちぎり絵体験を通して文化交流を行った。



クロトシン市の文化祭

2019年、クロトシン市ポーランド相撲連盟代表団が来島した際に、相撲を通じた交流だけでなく、ポーランドフェスティバルを開催した。隠岐の島町の住民の方々に隠岐の島町と友好都市であるクロトシン市の交流活動や民族衣装を着用体験していただくことで、クロトシン市をはじめ広くポーランドについて知っていただく機会となった。また、ポーランド相撲連盟代表団の方には、日本文化として餅投げを体験してもらう等、大いに盛り上がった。



隠岐の島のポーランドフェスティバル

## ③ 教育を通じた交流

隠岐の島町では、2018年からヴィエルコポルスカ蜂起第1小学校と文通交流を続けている。2017年11月にクロトシン副市長リシャルド・チュシケ氏が友好都市交流事業として、両市町の生徒が参加できる文通を提案した。お互いの外国語として導入されている英語を使用し、継続した交流を行っている。当初は隠岐の島町内の1校だけで行っていたが、2020年からは、「交流の輪を広げよう」という考えのもと全4校を対象に課外授業という形で実施した。

コロナ禍においては、ポーランドでは小学校4年生以上の児童・生徒は登校せずパソコンを用いた遠隔学習を行っていたため、隠岐の島町の生徒は自筆した手紙をPDFにして送付した。また、ヴィエルコポルスカ蜂起第1小学校の児童はメールを送信するなど、工夫がなされた。自国の文化や習慣等について手紙を書くことで、お互いの地域について広く関心を持ってもらうとともに、子どもたちに今までと変わらない交流の機会を提供している。



小学校間で送付されたはがき

## ④ 2021年クロトシン市と5周年記念事業

隠岐の島町とクロトシン市は2021年で姉妹都市提携5周年を迎えた。友好都市関係としての歴史は長くはないが、日本とポーランドの自治体が初めて結んだ提携であることから記念すべきことである。現在、コロナ禍であるため相互の訪問は難しいが、隠岐の島町からはクロトシン市への記念として、町長のメッセージや、公民館でのポーランド文化講座の様子や役場職員によるポーランド語での一言挨拶を動画で撮影し、ビデオレターを送った。



隠岐の島からのビデオレター

## 【(参考) 姉妹都市の概要】

	隠岐の島町の概要	クロトシン市の概要
人口	13,708人	29,110人
面積	242.82km <sup>2</sup>	22.5 km <sup>2</sup>
概況	<p>隠岐の島町が位置する島後(どうご)は、島根半島の北東約80kmの海上に位置し、隠岐諸島中最大の島である。</p> <p>島の外周は151km(宍道湖外周の約3倍)、面積は242.82km<sup>2</sup>(琵琶湖の約36%)あり、面積の約80%を森林が占めている。</p> <p>隠岐の島は、様々な魚介類が混在し、全国でも有数の好漁場で、島根県の漁獲高の7割は隠岐が占めている。また、太古から文化を受け継ぎながら、天皇や貴人が流された遠流の島、北前船が行き交う海運拠点となり、多様で豊かな文化が形成された。ユネスコ世界ジオパークにも認定されており、島ならではの観光や体験を味わうことができる。</p>	<p>クロトシン市はポーランド共和国のヴィエルコポルスカ県の南部に位置し、県庁所在地であるポズナン市から約108km離れている。クロトシン市の基礎自治体は、クロトシン市とその周辺にある市村で構成されている。</p> <p>クロトシン自治体はポーランドと外国の様々な大中小企業の拠点で、機械工業・建設業・食料産業・衣料品産業などが盛んな地域であり、住民は農業にも従事している。その地域の伝統的な農場を続けたり、農場グループを組んだりすることで、豚・牛の飼育やムギの耕作に携わっている。</p>

## 【姉妹都市交流に係る周辺情報】

提携年月日	2016年6月
姉妹都市提携の経緯	<p>ポーランドで人気を集めている相撲をきっかけに、隠岐の島町とクロトシン市の交流が始まった。ポーランド相撲連盟10周年を記念するイベントに出席するためにクロトシン市を訪れた在ポーランド日本大使の山中誠氏とクロトシン市長マルシャウエク氏の対話から、相撲を通じた日本・ポーランドの草の根レベルの交流のアイデアが生まれた。</p> <p>両国大使の援助により、2015年に隠岐の島町とクロトシン市の相互交流が始まった。クロトシン市の代表団が来島し、隠岐の島町の代表団もクロトシン市制600周年記念式典に参加した。その後、クロトシン市で開催されたポーランド相撲選手権大会に隠岐の島町出身の力士が参加し、ポーランドの力士も五箇地区相撲大会に出場した。そして、2016年に両都市において友好都市提携調印式が行われた。</p>
交流事業の展望、課題等	<p>今後についても、相互に市民・町民が未永く続く交流に期待する。また、コロナ禍によって思うような交流ができなくなってきているが、アフターコロナ、ウィズコロナを見据えて新しい企画・交流を進めていきたい。また、新しい取り組みとして経済交流の一環で、隠岐の島町だけでなく、島根県全域での交流に発展していけるようにきっかけづくりも行っていきたい。</p>
(作成年月：2022年3月)	

※事例紹介に掲載されております人口、面積等の情報は作成年月時で公表された数値です。また、ホームページのリンク先、掲載動画等につきましては、自治体のホームページの更新等によりリンク切れになっている場合があります。